



発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
小角道男
八尾市高美町5-3-4
TEL(072)992-0119
FAX(072)992-7722



第54回大阪府消防大会

平成22年9月5日(日)残暑厳しい中、大阪府立消防学校で第54回大阪府消防大会が開催され、小型ポンプ操法の部で八尾市消防団大正分団の団員が八尾市の代表として出場し32年ぶりに優勝を勝ち取りました。

大正分団の団員は、初めて経験する小型ポンプ操法であり、選手の年齢層も高く、当日の会場の雰囲気にも呑み込まれないかなど心配していましたが、選手たちは落ち着いて万全な状態で大会に挑めたそうです。

優勝を聞いたときは、本当に驚きと感動で胸が一杯になりました。大会出場が決まった日から優勝を目指し選手をはじめ大正分団が一丸となり、年明けから週2回の基礎体力作り、5月上旬から本格的に訓練を開始し大会までの約4カ月間、警防課職員の間熱ある御指導をはじめ、団長、団幹部、各分団皆様の激励には、大正分団一同心より感謝しております。

この訓練で、八尾市消防団の絆がより一層強く結ばれたことが今後の消防団活動において有意義なものとなり、後輩たちに受け継が

れていくことが何よりの収穫です。
最後に選手の皆さん、小型ポンプ操法の部優勝おめでとうございます。

大正分団 中川 憲一



(8面関連記事)



任命式

平成22年4月1日(木)消防団員の任命式が挙行され、5名の新団員が誕生しました。
新団員の抱負を伺いました。



赤岩 孝治(久宝寺)
① 自動車整備士
② 育児
③ 消防団の一員としての責任と自覚を持ち、地域に貢献できる様に頑張っていきます。



坂根 和男(西郡)
① 土建業
② 竹笛
③ お疲れ様です！任命式の時、団長は固い握手と激励をくださいました。
俺ら同期は励ましあって、不断の備えで精進したいと思えます。



鳥飼 晴仁(八尾)
① 会社員
② ゴルフ
③ 消防団員の一人として、地域、社会に貢献できるように、先輩団員の方々の御指導のもと、頑張りたいと思います。



久保 元伸(曙川)
① 診療放射線技師
② アウトドア全般
③ 入ったばかりで右も左も分かりませんが、できる限り活動に参加して、精一杯地域に貢献できる消防団になります。



中山 勝之(山本)
① 会社員
② 映画鑑賞
③ 先輩団員の方々の御指導のもと、一日も早く一人前となり、地域に貢献できるように頑張りたいと思います。

新団員プロフィール
氏名(所属分団)
① 職業
② 趣味
③ 消防団員としての抱負

基礎(初任)教育訓練実施

平成22年5月23日(日)大阪府立消防学校において、消防団員基礎(初任)教育訓練が実施されました。

中河内地区支部、北河内地区支部合同ということもあって、172名の参加の中、開講式が行われ、最初の1時間は、研修室において座学(消防団の概要、任免、事故防止)などの基礎知識を学びました。
その後、屋内訓練場にて訓練礼式の実習。午前の部はこれで終了し、昼食の頃には、仲間意識もでき、みんなでワイワイとした時間を過ごしました。



午後はまた屋内訓練場にて実科訓練。まず放水訓練を行いました。が、実際にやってみると想像以上の水圧にビックリしました。その後は、器具取扱いの実習。

全て終了して、夕方に閉講式を迎えた訳ですが、今回の研修は、全て新鮮で、かつ、身が引き締まる体験をさせていただきました。見るのと実際にやるのは全く違いましたし、中途半端な気持ちではだめだと再認識しました。
今回の経験を今後の活動に生かし、精一杯努力していきます。

曙川分団 杉田 昌己

消防団幹部教育訓練

平成22年4月25日(日)大阪府立消防学校において消防団員幹部教育訓練が実施され、部長・班長を対象に訓練礼式に重点をおいた幹部教育訓練に参加させていただきました。

まず消防組織法による訓練礼式で①個人の規律心の向上、確實軽快な動作及び態度の練成②指導者としての指導能力を学びました。

その他、煙中訓練、放水訓練と多くの講義や実習を経験し幹部一人一人が気を引き締めて後輩団員の指導にあたるべきと痛感しました。



そして5月23日(日)には、消防学校にて初任教育訓練に指導員として参加させていただきました。

当日はあいにくの天候で午前中は、訓練礼式(各個訓練、敬礼動作、分列行進、通常点検)、午後からは放水訓練と器具取扱いの訓練があり教官補佐として指導させていただきました。

今回の訓練が今後より多くの幹部が参加できる訓練になればいいなと思います。

龍華分団 岡田 真一

八尾市防災訓練

平成22年9月12日(日)八尾市立竹瀝小学校で、市内において震度7の地震が発生したと想定し、防災訓練が実施されました。

竹瀝地区を管轄する龍華分団は、小学校近くの公園に集まった地域住民約200名を会場まで避難誘導し、地震災害対応実働訓練では、瓦礫に埋もれた要救助者を地域自主防災組織、救助隊と協力して救出し、応急救護所に搬送するなど、実戦さながらの雰囲気を経験することができました。



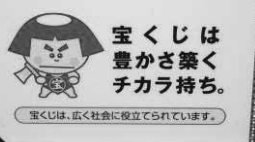
訓練会場では、八尾市の防災関係機関の体験ブースがあり、中でもはしご車の搭乗体験、訓練用の水消火器を使った消火体験は子ども達に大人気でした。

予期せぬ地震発生に対し、防災訓練をすることで地域住民の防災意識を高めていくことは、本当に大事だと思いました。

龍華分団 廣岡勝

消防団広報用アンプレット配備

宝くじ普及広報事業の一環として、ふるさと消防団活性化助成事業助成金により広報用アンプレットを配備しました。





今年も6月5日(土)幸町6丁目公園に於きまして、木村重成祭が開催されました。

木村長門守重成公は、文武に優れた若武者で、夏の陣にて戦死なされた折は、大阪城中の女子が涙したそうです。

前日までに準備していた、のぼりなどを一気に飾り付け、会場の設置もひと段落した時、火災指令があり、初めて団員として現場に出場して緊張しました。

会場に帰つてくると、田中市長と多数の来賓の方々がお見えになられ、緊張感ある空気の中、神主に祝詞をあげていただき、式典は無事に終了しました。

帰り際に田中市長が「夏活動服は、どうですか?」と聞かれたので、すかさず「めっちゃいいです。」と、お答えしました。新しい夏活動服は生地が薄く、大変着心地が良く、メッシュ生地の帽子が涼しさを一段と引き立て、活動意欲がわいてきます。

皆様が楽しい行事に参加できたことが、とても嬉しかったです。

西郡分団 坂根 和男



分団紹介 高安分団

私達高安分団は、南は郡川、北は楽音寺までの11地区の広い地域を管轄しております。地域柄団員は、農業や造園業などの力仕事に従事している若くて熱意あふれる人が多くいるのが特徴です。

活動内容は、毎月第二土曜日のポンプ点検と団員会議をはじめ、いつ火災が発生しても対応できるようにポンプ操法の訓練などを行っております。また、地域で行われる盆踊りやスポーツ祭の警備、夏祭りの交通整理などを任せております。



高安分団は高安山の山麓に位置しますので、これからは林野火災に備えた訓練も取り入れ、高安地

名物団員

地域の安全と安心を守る組織の一つとして頑張ります。

今回、高安分団が紹介する名物団員は真砂弘団員です。

真砂さんはまだ入団して3年目ですが、既に10年以上所属しているような溶け込みようで、性格はとも社交的で分団内の人気者です。また、消防活動にも熱心で、まさに消防団に入るために生まれてきたような男です。

こんな真砂さんですが性格に似合わず、手先がとても器用でプラモデルの製作など細かい作業が得意です。なかでも太鼓台のミニチュア作りは趣味の域を越えて、多くの人から依頼を受けるほどです。



真砂さんには、10年、20年と消防団を続けていただき、分団長を目指してもらいたいです。

高安分団 阪井 俊樹

厚生事業ゴルフ

平成22年5月30日(日)奈良県春日台カントリークラブにおいて恒例の春の消防団厚生事業八消会ゴルフコンペが開催されました。参加者は総勢44名で各分団のゴルフ自慢が腕を競い合いました。

当日は天候にも恵まれ、おだやかなゴルフ日和となりました。

ゴルフをとおして、普段接することの少ない他分団の団員とも親睦を図ることができました。

これを機に、また明日から地域の消防団活動に励もうと思いをしました。

- なお結果は次のとおりです。
- 優勝 上野 正巳 志紀分団
 - 準優勝 坂井 弘明 高安分団
 - 第三位 畑中 裕昭 団本部



(写真右優勝した上野さん)
高安分団 山脇 孝夫

八尾まつり

平成22年8月28日(土)八尾河内音頭まつりが執り行われました。今年の夏は記録的な猛暑にもかかわらず77団体、約3,000人の若男女が暑い中、猛暑も吹き飛ばす程の熱き踊りを披露してくれました。



パレードに参加されている方を見てみると、この日の本番を迎える迄に暑い中何度も練習をしていたのが思い浮かびます。夕方に

幹部視察研修

平成22年6月23日(水)に幹部視察研修のため、滋賀県大津市にある水のめぐみ館アクア琵琶を視察しました。

アクア琵琶は、琵琶湖と水のめぐみ、歴史、自然を体感しながら学べるという施設でした。

近年、各地で局地的なゲリラ豪雨が発生している中、大和川や恩智川という河川が流れる八尾市でも河川氾濫などの災害が発生しないとはいえません。

「水」をテーマとした研修ではありましたが、今回の研修は地域を守る消防団として、防災意識の高揚に繋がるものとなりました。

南高安分団長 森山 敏



(警備本部にて撮影)



なつても気温が下がらない中でも沢山の方が参加されていました。今年の八尾河内音頭まつりは猛暑の中行われましたが、何事もなく無事に終了できて良かったと思います。

最後に、暑い中パレードに参加された方々、沿道警備をされた皆様大変お疲れ様でした。

来年もより良い八尾河内音頭まつりが行われることを願っています。まだまだ、暑い日は続きますが、我々消防団も暑さに負けないよう消防団活動に励んでいきます。

八尾分団 今井 隆

恩智川水防訓練

平成22年4月24日(土)、北西方面隊が恩智川水防訓練に参加しました。小角団長統監、藤本北西方面隊長指揮の下、第3小隊として横山小隊長以下20名による積み土の工の訓練を実施しました。

当日は、晴れたり小雨が降ったり忙しい天気の中、小隊長の指揮により4工程をそれぞれの分団が交代しながら

- ①土のう作り
 - ②土のう運搬
 - ③土のうの隙間つめ
 - ④たこ突き
- と手際よく行うことができました。



あくまで訓練ということ、足元も良く、日中の明るい時間帯でしたが、実際に必要とされる場合、このように恵まれた環境ではなく、作業の行いにくい状況となることから、普段からの訓練の必要性を改めて認識しました。

久宝寺分団 吉川 明憲



大阪府地域防災総合演習

平成22年6月2日(水) 大阪府旭区の淀川左岸において大阪府地域防災総合演習が、全体で22団体350名規模により行われ、藤本方面隊長を班長とした、主に北西方面隊で組織された21名が水防工法の一つである積み土のう工を実施しました。

演習開始の合図で現地に移動し、まずは土のう作り、4班に分かれて約200個の土のうを作っていました。

今回のチームは、その過半数が先の恩智川水防訓練で積み土のう工を経験しており、当日はスムーズに作業が進みました。(工法は「恩智川水防訓練」欄参照)

しっかりと強固な積み土のうを完成させ、達成感を抱きつつ待機場所に駆け足で戻り、改めて自分達の作った積み土のうを見て、やや残念に思ったことが…。

それは、演習会場が広大なため、作り上げた積み土のうが、少しボリューム不足に見えてしまったのです。

もう少し、高さ、横幅において、大きめの工法を行ったほうが閲覧者に対してインパクトを与えられ

るのではないかと思いました。

しかしながら、今回の演習で培ったチームワークの大切さは、災害時にきつと威力を発揮すると強く感じながら、演習会場を後にしました。

久宝寺分団 松本 圭司





藍綬褒章受章

昭和46年4月1日八尾市消防団員になり、平成22年春の褒章に際しまして藍綬褒章を受章させていただきました。誠にありがとうございました。今日まで御指導いただきました。



(大阪府公館にて撮影)

地元の方々、そして先輩諸氏並びに団幹部の皆様には心より厚く御礼申し上げます。

お陰を持ちまして、平成22年5月7日大阪府公館におきまして、橋下知事により褒章、章記の伝達を受けさせていただきました。

また、5月14日には、中央合同庁舎「総務省講堂」で褒章伝達式、午後からは、皇居内「春秋の間」において、天皇陛下に拝謁の栄を賜り感激の極みでございました。これからも消防団活動に一生懸命努力して行きたいと思えます。

最後に八尾市の安全安心のために、地域防災の強化に努め、この榮譽に恥じることのない様、八尾市消防団員として、努力して行きたいと思っております。

山本分団長 岩田 保一

中河内地区支部消防総合訓練

平成22年8月22日(日)晴天の中、中河内地区支部消防総合訓練が柏原市立堅下北小学校にて、八尾市70名、東大阪市90名、柏原市65名の団員、各市合せて12台のポンプ車の参加で開催されました。

まず、柏原市消防団による規律訓練、次に八尾市消防団による小型ポンプ操法、最後に東大阪市消

防団によるポンプ車操法が披露されました。

今年度のポンプ操法は、大正分団の精鋭4名と分団員の方々、志紀分団は訓練のサポートで参加しました。

当日はかなりの暑さにも関わらず選手の方々は、数ヶ月の訓練の成果を存分に発揮されて無事に終了しました。

この訓練に参加された皆様、本当に暑い中、お疲れ様でした。

志紀分団 西村 俊彦



● 広報部員名簿 ●

委員長

西部分団

澤田 吉行

副委員長

八尾分団

中村 佳昭

南高分分団

川崎 光昭

委員

久宝寺分団

松本 圭司

西部分団

吉川 明憲

八尾分団

坂根 和男

龍華分団

今井 隆男

大正分団

廣岡 勝隆

曙川分団

兼山 治勝

南高分分団

小川 章治

高安分団

小林 邦章

山本分団

中川 憲一

志紀分団

杉田 昌己

山本分団

野中 健司

山本分団

坂本 裕寛

山本分団

山脇 孝夫

山本分団

阪井 俊樹

山本分団

川田 亮剛

山本分団

寺内 亮仁

山本分団

山口 伸彦

山本分団

山西 通伸

編集後記

第26号編集お疲れ様でした。締め切り直前の行事もある中、迅速な記事提出でスムーズにできました。次号もよろしくお願いたします。

澤田 吉行

～第54回大阪府消防大会を終えて～



1番員 西山 孝文

この度、小型ポンプ操法訓練で1番員をさせていただき、ありがとうございました。年明けからの訓練では、やるからには優勝するぞという気持ちで臨みましたが、操法は想像以上に難しく、どんどん自信を無くしました。大会が近づくとつれ八尾市を代表して出場するというプレッシャーが重く精神的、肉体的にしんどかったです。しかし、警防課職員の最後まで諦めない熱心な指導と、小角団長をはじめ団幹部の方々、各分団の激励、そして志紀分団、大正分団の方々のサポートと家族に支えられ、最後まで頑張ることができました。みんなが一致団結したからこそ大阪府消防大会で優勝できたと思います。

長い間ご協力、本当にありがとうございました。これからも消防団活動に努力していきます。



指揮者 木田 宗利

大会に向け、年明けの自主練習から半年余り、暑い中、非常に過酷な訓練が続きましたが、今思い返せばあっという間に時間が過ぎ、もう終わってしまったんだという寂しい気持ちになっています。

大会当日の表彰式では、苦しかったこと嬉しかったこと、支えて下さった皆様の顔が心の中に甦ってきて涙を止めることができませんでした。

ポンプ操法訓練を経験できたことは、私たち選手にとって一生忘れることのない良い思い出となりました。この経験を生かしこれからも地域防災のために役立てていきたいと思えます。

優勝を勝ち得たことは、警防課の皆様、志紀分団、大正分団の仲間たちの支えがあったからであり、みんなで勝ち取った優勝旗だと思えます。

皆様、本当に長い間ありがとうございました。



2番員 竹田 隆誠

今回の大会は、南西方面隊として大正分団が出場させていただきました。右も左もわからない状態から初めて訓練に参加しました。

まずは体力、と思い年明けから自主訓練を始め過去の大会のビデオを見ながら研究したりしましたが、いざ訓練に入ると全く思うようにできませんでした。

しかし、消防本部職員、志紀分団の方々さらには他方面隊の方々の指導や激励のおかげで充実した訓練ができ優勝することができました。

これも一重に警防課職員と小角団長以下280名の消防団員が丸となってできたことの結果だと思えます。今回、出場のお機会を与えていただき本当にありがとうございました。



3番員 小林 邦章

年明けより選手及びサポート役のメンバーで大和川の堤防を走り始め、9月5日の大会当日迄の約6ヶ月間、操法に対するいろんな課題や問題を大正分団一丸となり、共に考え乗り越えてきました。

そして、操法を御指導してくださいました警防課の皆様、私たち大正分団を支えて下さった南西方面隊の志紀分団の皆様、応援して下さいました八尾市消防団の皆様のおかげで今回の優勝に繋げることができました。

今回の小型ポンプ操法を通じて味わうことのできた達成感や喜びを生かし、これからの消防団活動に貢献していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

この度、大阪府消防大会小型ポンプ操法の部に出場するに際し、多数の方々の御指導御鞭撻、誠にありがとうございました。お陰を持ちまして当初の目標でありました大会当日までの全日程をやり遂げることができました。また、そのご褒美として「優勝」の2文字を頂くことができました。選手各自の努力は元より、サポートするものは選手と一心同体であり、技術面だけでなく精神面でも支えになってくれました。

DVDでイメージトレーニングを提供した者、自主訓練場を準備した者、毎回ビデオ撮影しチェックポイントを確認する者、大正分団員全員が毎回仕事を終えて選手と同じ気持ちになり訓練する意識が今回の結果に繋がったと思えます。

防災拠点での訓練初日はジャンパー無しでは立っていられなかったのが、大会当日は38度の猛暑、これだけの長い間やったのだとつくづく思いました。指導していただいた警防課の皆様、ご協力いただいた志紀分団、そして大正分団、本当にご苦勞様でした。

そして、感動と嬉しい思い出をありがとうございました。

大正分団長 嶋野 雅一